

会 議 要 旨

会 議 名 称	令和５年度第２回加古川市環境審議会
開 催 日 時	令和５年８月３１日（木）午後２時から３時３０分まで
開 催 場 所	加古川市役所 南館 ３０１会議室
出 席 者	<委員>（敬称略、順不同） （出席者：１６名） 河合豪史、下村千登勢、成川利幸、前島克彦、丸山良作、山口大介、山本亜也夫、石田弘明、井関崇博、奥勇一郎、佐竹邦子、富岡頼史、松岡智郁、西川孝晴、堀江智恵子、守家法子 （欠席者：３名） 工藤仁、清野未恵子、豊田陽介 <事務局> 岩崎泰央、新濱義孝、福山新一郎、小山泰典、藤本雅彦、畑悦子、多田純也、松本勝稀、小林裕美
会 議 次 第	１ 開 会 ２ あいさつ ３ 議題 （１）第３次加古川市環境基本計画（改定版）（案）に係るパブリックコメント実施結果及び本市の考え方について （２）答申（案）について ４ その他 ５ 閉会
配 布 資 料	資料１ 加古川市環境審議会委員名簿 資料２ 第３次加古川市環境基本計画（改定版）（案）に係るパブリックコメント実施結果について 資料３ パブリックコメントに寄せられた意見の要旨と本市の考え方について 資料４ パブリックコメントに寄せられた意見を基に修正した計画本文の抜粋 資料５ 答申（案）について
傍聴者の数	１人

審議内容（発言者、発言内容、審議経過等）	
	1 開会 2 あいさつ 奥会長からあいさつ 3 議事 （1）第3次加古川市環境基本計画（改定版）（案）に係るパブリックコメント実施結果及び本市の考え方について
（事務局）	第3次加古川市環境基本計画（改定版）（案）に係るパブリックコメント実施結果について説明。
（委員）	気候危機の記述について、「異常気象の発生率は、2010年から2020年までの10年間で15倍に増大」とあるが、その情報源を追記してはどうか。
（事務局）	引用元を記載する。
（委員）	パブリックコメントの実施結果については、資料をそのまま公表するのか。
（事務局）	頂いた意見の原文の公表は差し控え、要約した内容と回答を掲載予定。
（委員）	回答の内容が、曖昧な部分がある。意見を踏まえて、どう対応するのかを明確に記載するべきではないか。 また、エコクリーンピアはりまのバイオマス発電は地産地消に該当と表現してよいのか。
（事務局）	エコクリーンピアはりまで発電した電力を地元で使うというのは地産地消に該当しているため記載した。名称を公表するか検討する。
（委員）	パブリックコメントでも、地球温暖化防止対策をもっと厳しく行うべきという意見と自然を大事にしてほしいと両極な意見がある。これが市民の意見ではないか。ゼロカーボンという言葉を目にする機会も増えてきたが、それに対して消極的な市民もいると思う。ゼロカーボンは、世界中で取り組まれていることであり、加古川市も対策を進めているところとお見受けするが、新たな事業を開始される際は、市民の理解が得られるように慎重に調整等を行っ

	てもらいたい。
(事務局)	現在、世界で脱炭素社会の実現に向けて取組を進めているが、近い将来方向性が変わる可能性もある。そのため、引き続き、環境審議会等を開催し、最新の情報や世界の潮流を鑑みて、必要に応じて、本計画を再度見直すことも検討していく。
(委員)	地球温暖化は地球規模の問題と考えている。パブリックコメントの中でも一般市民の認識を深め、市民会議などを開き広く市民の意見を取り上げてほしいという意見もあり、市民会議を充実させ、啓発活動を積極的に実施してほしい。
(事務局)	市民会議等は市民の貴重な意見を賜る場であり、一緒に前へ進めていきたいと思っている。そのため、環境啓発なども明るい雰囲気の中で楽しみながら知識を広げていき環境対策に取り組んでいくような街にしていきたいと考えている。 (2) 答申(案)について
(事務局)	答申(案)について説明。
(委員)	答申書について、「次世代のエネルギーとして水素」という表現が突出しているように感じるが、これはなぜなのか。
(事務局)	これまでの本審議会でも水素エネルギーについては議論があり、水素の利活用について検討をしてきた。また、パブリックコメントでも今後を見据えた取組を検討してほしいと意見もあったので、水素エネルギーの利活用について答申書に記載している。
(委員)	上記の内容を記載しておけば、もう少しわかりやすいのでは。
(委員)	2030 年以降も見据えていく中で、水素エネルギーは重要になると考える。本計画は 2030 年までの目標であるが、2030 年以降のことも考えていくという意思表示として入れておくべきだと思う。そういう位置付けであるという文言をいれてもいいのでは。

(事務局)	「次世代エネルギーである」を、「次世代のエネルギーを見据えて」に変更。 「水素エネルギーの利活用を」の後は、「進める」でよいか。
(委員)	「進める」という言葉が勇み足になるならば、「検討する」「検討していく」でもよいのでは。
(委員)	水素は県や国の方針であるので「進める」でよいのではないか。
(委員)	「進める」という表現に反対はないが、冒頭の「カーボンニュートラルポートの形成」とすると、それだけを限定しているようで少し絞りすぎではないのか。
(事務局)	現在、水素に関して県と協力して進めている事業がカーボンニュートラルポートであり、これをきっかけに広げていこうという思いから、このような表現にしていたが 2050 年以降の未来を見据え、「脱炭素社会の構築」のような言葉を含めるのはどうか。
(委員)	枕詞として、「水素を中心とした社会の実現に向けて」という様な言葉があれば、あくまで目指すのは脱炭素社会、その後ろに「播磨臨海地域におけるカーボンニュートラルポート」とすれば、他の委員の意見も反映できるかと思う。
(事務局)	冒頭に追加として、「脱炭素社会の実現を目指して」という文言を追加。「次世代エネルギーである」の部分を「次世代のエネルギーを見据えて、水素エネルギーの利活用を進める」と変更する。
(委員)	脱炭素を推進している組織の情報を記載して欲しい。
(事務局)	脱炭素社会は世界的な潮流ではあるがまず加古川市として求めるという意味合いで、「我々には」という部分を「我々は国が進める脱炭素社会」と変更する。
(事務局)	答申（案）としては以上とし、最後にまとめとして、本計画の改定の箇所を再度確認。 修正内容の確認は、会長に一任としてよいか。

(各委員)	異議なし。
(事務局)	4 その他 9月22日（金）に奥会長から答申。その後、本計画と概要版を製本し、各委員に配布すると説明。 5 閉会